



動作動詞の中英対照研究：揉とその対応英語表現

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮畑, 一範 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00009964

動作動詞の中英対照研究

—— 揉 とその対応英語表現※

宮 畑 一 範

<kazm@lc.cias.osakafu-u.ac.jp>

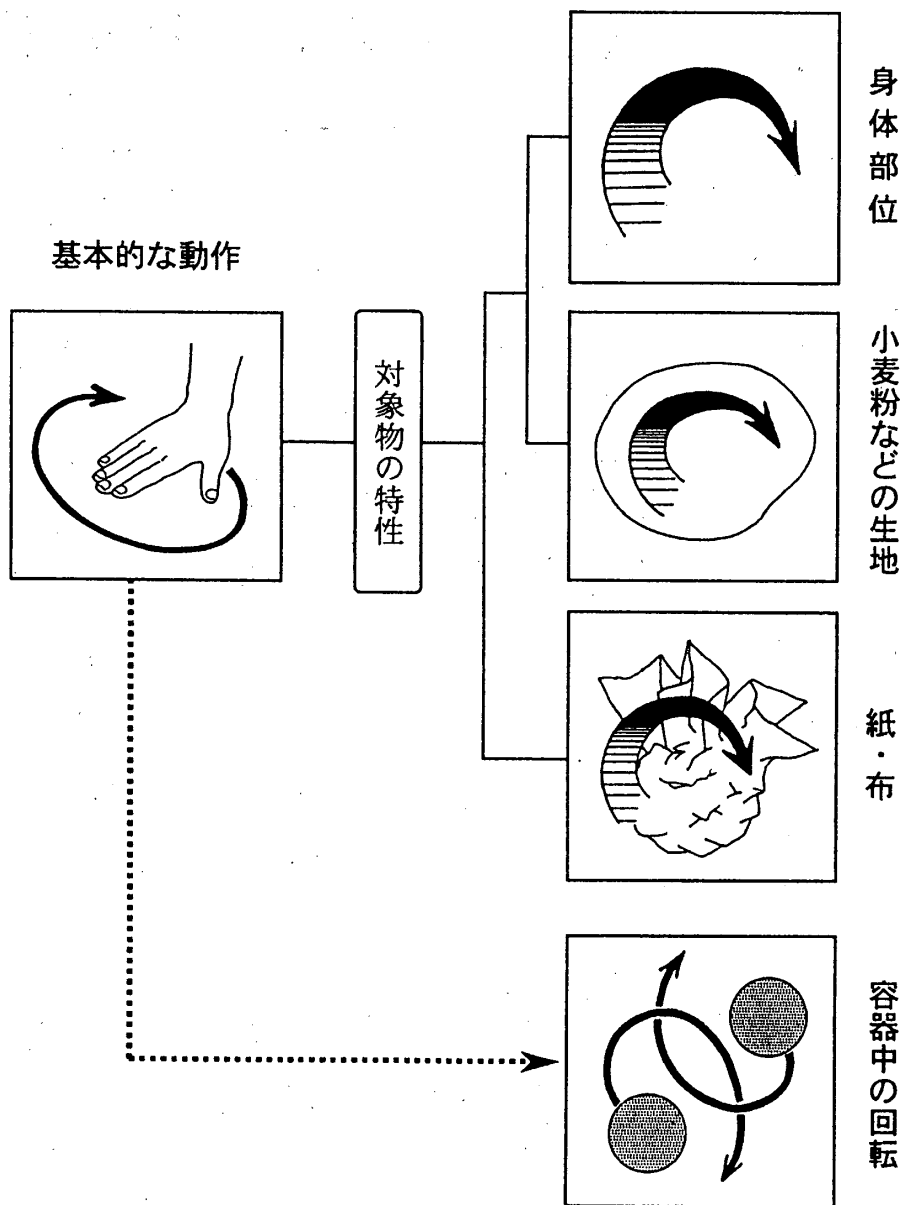
本論は、プロジェクトD(2002)の“揉”の意味分析に基づき、対応する英語表現の可能性を検討すると同時に、両者の意味的な共通点と相違点を明らかにすることを試みる。まず、プロジェクトD(2002)の分析に沿って、“揉”の全体像について整理する。次に、プロジェクトD(2002)で用いた用例を基に、それをカバーしうる英語表現の候補を挙げつつ、“揉”との意味的な対応具合について考察する。最後に、まとめとして、“揉”の用例と対応する主な英語表現とを総覧し、中英対照の観点から総括する。

1. 揉

“揉”は、手(手のひら・指)を対象物に押し当て、圧力を加えながら、円弧を描くようにして繰り返す動かす動作を基本とする。その際、対象物の内側へ円弧状の力が送り込まれる様子が認識される必要があるのが重要な要因である。対象物の特性によって、弾力性に富む身体部位、小麦粉などの生地、弾力性に劣る紙や布などの3つのパターンが観察される。これらは、結果として異なる(形状)変化が引き起こされるが、基本的な動作によって対象物に加えられる力の様子は全て共通している。もうひとつ、容器内での物体の円弧状の動きを表す“揉”があるが、これは、基本的な動作によって、対象物の内側に伝達される力を受けて、内部で発生する変化(攪拌)に着目したものであると位置付けることができる(時間的・空間的隣接性を契機にした意味的拡張と考えられる)。基本的な動作を中心に、これらの4つのグループの関連性を図示すると、以下のようにまとめることができる。

次節では、これら身体部位、小麦粉などの生地、紙・布、容器内の回転の4つのグループの用例に対応する英語表現の可能性を探りつつ、候補として考えられる英語表現との意味的な相違にも言及していく。

※ 本論作成に当たっては、プロジェクトD(2002)の成果は勿論のこと、様々な段階において、時間的な制約にも拘わらず、幾つもの有益な意見やアドバイスを提供して頂き、このプロジェクト参加メンバーの皆さんの御厚意と全面協力に、心より感謝の意を表したい。また、対応する英語表現に関しては、インフォーマントとして、Arturo Guajardo氏から多くの貴重な情報やコメントを頂戴した。この場を借りて、深く御礼申し上げたい。



2.1. 身体部位を“揉”する用例と対応する英語表現

身体部位で“揉”の対象物となる典型的なものには、目や足や腹などが挙げられる。いずれの行為も、英語では、RUBが候補として考えられる。RUBは、摩擦を伴う直線反復的な接触移動のスキーマを中心に、〈付着物〉が参与すると、〈MO〉から〈LM〉へ、或いは、〈LM〉から〈MO〉への〈付着物〉の塗布、若しくは、〈LM〉上の、或いは、〈MO〉上の〈付着物〉の除去というスキーマが活性化される(宮畑(2000))。この摩擦を伴う反復する接触移動という点で、“揉”をカバーする最有力候補となるのである。以下、“揉”の各用例を基に、具体的な英語対応表現の可能性を検討しながら、RUB以外の候補表現との差異についても述べていく。

目をこする“揉”[揉眼睛(目をこする)]は、眠い場合でも、痒い場合でも、疲れている場合でも、いずれも、**rub one's eye(s)** に対応可能である。疲れを癒す目的が強く意識される場合は、**MASSAGE** も使われる。目をこすって赤くなる場合[把眼睛揉红(力いっぱいこすり、目が赤くなる)]、**rub one's eye(s) red** と表現される。**MASSAGE**だと、**RUB**よりもソフトな(表面摩擦の程度が少ない)加力と理解される為、目が赤く変化することとは、普通結び付かない(但し、「マッサージのし過ぎで」という文脈の支えがあれば、**massage one's eye(s) red** は十分許容される表現である)。

目をこすって砂を取る“揉”[把眼里的沙子揉出(目をこすって砂を取る)]は、**rub the sand out of one's eye(s)** と表現される。目やにをこすって取る場合[揉眼屎(目をこすって目やにを取る)]は、**RUB**を用いることも可能であるが、**wipe away mucus** と**WIPE**の方が普通好まれる。砂の場合は、目の奥に入り込んでいるのを掻き出すような感じを伴うのに対して、目やには単に表面に付着した状態であるので、こすり取る際にそれ程の加力(圧力)を必要としないと感じられる為だと考えられる。

痛みを緩和させる行為として、顔をさする動作[揉脸(顔をさする)]は、**RUB**や**MASSAGE**によって表現可能である。優しく労る感じや愛情のニュアンスを強く伴う点が“揉”とはずれてしまうが、動作としては**STROKE**も候補として考えられる¹⁾。

壁などに頭をぶつけてできたこぶを“揉”する[揉肿包(こぶを手でなでる)]動作を表すのも、**rub a lump on one's head** と**RUB**を使うのが最も一般的である。その他、**MASSAGE/STROKE/CARESS** を用いたり、**touch gingerly**などと表現することも可能である。

痛むお腹をさする[揉肚子(お腹をさする)]動作も、**rub one's stomach**と**RUB**が最適候補である。愛着や優しさの感情が伴う場合には、**STROKE**や**PAT**²⁾も可能である。同じ痛む腹を対象とした行為でも、鋭く激しい痛みに対する場合は、**clutch one's stomach** という表現を用いるが、驚掴みにがしつと掴むような感じであり(cf. 宮畑(2003))、“揉”の動作とは異なる。

足やこめかみをもむ“揉”[揉腿(足をもむ)/揉太阳穴(こめかみをもむ)]は、**rub/massage/knead one's leg/temple**と表現できる。**KNEAD**は、次の2.2.で取り上げる小麦粉の生地を対象にした動作の比喩的な使用である。加力の強さは、**RUB**と同等で、**MASSAGE**よりも強い。また、**RUB**や**MASSAGE**は手を使って単にこすったり、さすったり、押さえついたりという比較的一般的な動作を表すが、**KNEAD**の場合は、もっと指を使った動きとして理解され、マッサージする部位の皮膚を指で掴ん(つまん)だり、持ち上げたりするような行為を含意する。その点では、この“揉”とは少し相違が目立つと言える。

-
- 1) **STROKE**は、gentle/lovingな触れ方が通常であるが、aggressive/hostileな場合も可能である。また、その触れ方も、**RUB**のような強めなものから、suggestive touchingのようなものまで、幅広くカバーする。
 - 2) **PAT**は、**DAB**(額の汗などをトントンと押すように拭く際のような触れ方)よりも強く、**TAP**(人の注意を促すために肩をトントンと叩くような感じ)よりも弱い接触の仕方、通常、単発か2~3回程度の繰り返して行われる動作である。通例、friendly touchingを表す。pat (on) one's belly/stomachは、食事後の満腹時に「お腹をさする(ぼんぼんと叩く)」意味でもよく使われる。

2.2. 小麦粉などの生地を“揉”する用例と対応する英語表現

小麦粉の生地をこねて作り上げる動作 [揉面(小麦粉をこねる)]は、mix flour and water and knead into doughと表現される。基本的に、KNEADは、この小麦粉の生地を作る際に、生地を掴んだり、押したり、引っ張ったりするのを繰り返す行為を意味する。この生地に、何か添加物を混ぜ(練り)込む [揉進～(～を混ぜ込む)]場合も、同様に、KNEADで対応可能である: e.g. knead nuts/beer/sugar etc. into the dough。

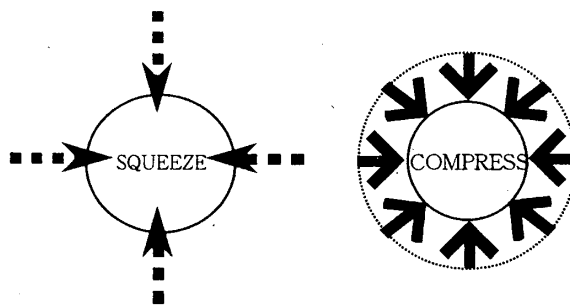
“揉”の場合は、雪玉や饅頭、泥団子などの生成物を目的語に取ることができる [揉成雪球(雪玉をこねて作る)/揉馒头(マントウを作る)/揉泥球(泥玉を作る)]が、通例、KNEADでは完成物を意味する名詞を目的語とした場合、いずれもそれを焼いて作る前の生地として理解される(例えば、knead bread/rolls/pizza etc. [= the dough for such items that have not yet been baked])。KNEADは、あくまでも、生地をこねて作る行為(手段)として認識されている、ということである。このような“揉”をカバーするには、例えば、雪玉であれば、squeeze/compress snowballsと別の動詞を用意する必要がある³⁾。

2.3. 紙・布を“揉”する用例と対応する英語表現

紙や布を対象にした“揉”という動作は、英語では、その動作による対象物の変化に着目して、大きく2つの系統の表現が対応しうる。ひとつは、丸い形状のまとまりを作るという点に重点を置けば、BALL (UP)やWAD (UP)、CONGLOBATEなどが対応する。もうひとつは、しわくちゃな状態にするという点に焦点を置くと、CRUMPLE、WRINKLE、RUMPLEなどが候補として挙げられる。

紙・布共に丸める行為 [把～揉成一团(～をひとつに丸める)]は、wad/ball up a piece of paper/cloth、crumple/wrinkle/rumple a piece of paper/cloth into a ballと表現されるのが基本パターンである。数枚のシャツをひとつに丸める [把几件衣服揉成一团(数枚のシャツをひとつに丸める)]は、例えば、ball up/conglobate some shirts、wad some shirts into a (rough) ball、

3) SQUEEZEでは、直線的な圧迫感が強調され(宮畑(2002:7)脚注6))、COMPRESSでは、全体的な圧縮にウェイトが置かれる。



gather some shirts up into a (rough) sphereなどと表現できる。書きつけを手の中で丸める[把字条在手里揉成一个团(書きつけを手の中で丸める)]に対しても、WADやCRUMPLEが最も候補として一般的に結びつけられる動詞である。若葉をもんで柔らかくする[把嫩叶揉烂(若葉をもんで柔らかくする)]なら、crumple young leaves until they are soft と言い表すことができる。

2.4. 容器の中での回転を表す“揉”と対応する英語表現

洗濯機の中で衣服が回ってひとかたまりになる[洗衣机里面的衣服揉成了一团(洗濯機の中で衣服が回ってひとかたまりになった)]のを描写する場合、英語では、2つのプロセスを別の動詞で担うことになる。衣類自体の回転運動そのものは、TUMBLEを使って表現される⁴⁾。ひとかたまりになる部分は、2.3.で見たように、WADなどを用いて言い表すことになる。

ポケットの中で手紙がもみくちゃになる[信在口袋里都揉烂了(ポケットの中で手紙がもみくちゃになった)]のは、CRUMPLE/CRUSH/PULVERIZE⁵⁾が、かばんの中でクッキーがもまれて粉々になる[饼干在书包里都揉碎了(かばんの中でクッキーがもまれて粉々になった)]のは、CRUMBLE/CRUSH/PULVERIZEが、対応表現として挙げられる。それぞれ3語の動詞は、disintegrationの程度に応じて(右の候補の方が、より程度が大)使い分けられる。

手の中で健身球やくるみをくるくと転がす[揉转健身球/揉转核桃(手で健身球/くるみをくるくと転がす)]動きは、英語では、その回転に着目して、ROLLやROTATEなどが選択される(roll/rotate healthy balls/walnuts)。

3. まとめ

最後に、まとめとして、4つのパタンの“揉”とその代表的な用例、及び、主な英語対応表現⁶⁾を一覧の形で提示しておく。

中国語の“揉”の場合、動作の動きそのものに着目しており、円弧の軌跡を描く加力の認知が重要で、これがすべての4パターンをリンクさせる要となっている。これに対して、英語の場合は、“揉”の4パターンそれぞれに関して対応する表現が、基本的に分化することになる。身体部位を“揉”する動作には、その行為の目的に重点が置かれたMASSAGEやRUBなどが主要な対応表現となる。小麦粉などの生地

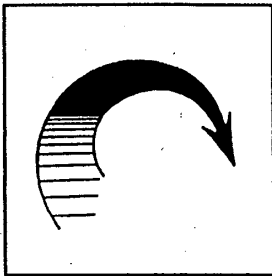
4) 回転式衣類乾燥機のことを“tumbler dryer”と言うのも、この動きに着目した表現である。

5) 紙片の場合でも、非常に古くて脆くなっている時には、CRUMBLEも可能であるが、一般に紙類は、皺にはなっても(CRUMPLE)、ばらばらに崩壊(CRUMBLE)はしない。また、PULVERIZEも基本的には、粒状や粉末状になる変化を表す語で、紙片に対して使われる場合には、比喩的か、特殊な状況下における描写ということになる。

6) 各ブロックでインデントを施してあるのは、その表現(グループ)が原語の意味合いとのずれが大きいことを示している。

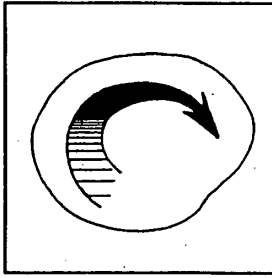
を“揉”する行為も、同じく、その動作の目的に着目したKNEADが基本的に対応することになる。紙や布の場合には、対象物の形状変化に注目して、ひとつに丸めるBALL、WAD、CONGLOBATEや、皺を作るCRUMPLE、WRINKLE、RUMPLEが候補として挙げられる。容器内での円弧軌跡の動きを表す“揉”に関しては、基本的に、動きそのものや形状変化に着目した表現が、文脈に応じて選択されるだけで、互いに特に共通や関連するところは観察されない。

■身体部位



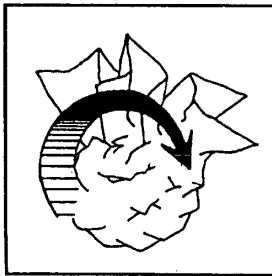
揉眼睛 (目をこする)	RUB one's eye(s) MASSAGE one's eye(s)
把眼睛揉红 (カいっばいこすり、目が赤くなる)	RUB one's eye(s) red MASSAGE one's eye(s) red
把眼里的沙子揉出 (目をこすって砂を取る)	RUB the sand out of one's eye(s)
揉眼屎 (目をこすって目やにを取る)	WIPE away mucus
揉脸 (顔をさする)	RUB/MASSAGE one's face STROKE one's face
揉肿包 (こぶを手でなでる)	RUB a lump on one's head MASSAGE/STROKE/CARESS TOUCH GINGERLY なども可。
揉肚子 (お腹をさする)	RUB one's stomach PAT/STROKE one's stomach
揉腿 (脚をもむ) / 揉太阳穴 (こめかみをもむ)	RUB/MASSAGE one's leg/temple KNEAD one's leg/temple

■生地



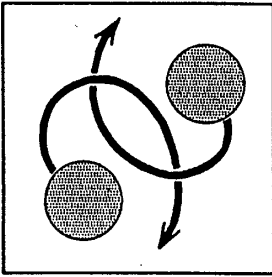
揉面 (小麦粉をこねる)	(mix flour and water and) KNEAD into dough
揉进~ (小麦粉の生地に (添加物を) 混ぜる [練り込む])	KNEAD (nuts/beer/sugar etc.) into the dough
揉成雪球 (雪玉をこねて作る)	SQUEEZE/COMPRESS snowballs

■紙・布



把~揉成一团 (紙や布を) ひとつに丸める)	WAD/BALL up a piece of paper/cloth CRUMPLE/WRINKLE/RUMPLE a piece of paper/cloth into a ball
把几件衣服揉成一团(数枚のシャツをひとつに丸める)	BALL UP/CONGLOBATE some shirts WAD/GATHER some shirts into a (rough) ball/sphere
把字条在手里揉成一个团 (書きつけを手の中で丸める)	WAD UP/CRUMPLE a paper CONGLOBATE a paper
把嫩叶揉烂 (若葉をもんで柔らかくする)	CRUMPLE young leaves until they are soft

■容器の中の回転



洗衣机里面的衣服揉成了一团 (洗濯機の中の衣類が回ってひとかたまりになった)	TUMBLE <動きそのものの描写> WAD など <ひとつに丸まる部分の描写>
信在口袋里都揉烂了 (ポケットの中で手紙がもみくちゃになった)	CRUMPLE/CRUSH/(PULVERIZE)
饼干在书包里都揉碎了 (かばんの中のクッキーがもまれて粉々になった)	CRUMBLE/CRUSH/PULVERIZE
揉转健身球/揉转核桃 (手で健身球/くるみをくるくると転がす)	ROLL/ROTATE healthy balls/walnuts

参 考 文 献

Chinese-English Dictionary. 《中英辞典(汉英词典)》1979. 香港：商務印書館.

Comprehensive Chinese-English Dictionary. 《汉英综合辞典》1991. 上海：上海外语教育出版社.

プロジェクトD. 2002. 「中国語動作動詞の研究 揉」『中国学志』(大阪市立大学中国学会)随号, pp. 1-13.

宮畑一範. 2000. 「除去・塗布系動詞の意味・用法の分析と記述」『英米言語文化研究』(大阪府立大学英米言語文化研究会) No. 48, pp. 127-151.

宮畑一範. 2002. 「TWISTとその関連語の意味分析」『大阪府立大学言語文化研究』第1号, pp. 1-11.

宮畑一範. 2003. 「動作動詞の中英対照研究——つかむ系」『大阪府立大学言語文化研究』第2号, pp. 13-30.